

挑む!

羽曳野市でウスイエンドウを栽培

北野 阿貴さん(35)

若い力で 伝統野菜広める



大阪府羽曳野市で、特産の「ウスイエンドウ」の栽培に力を注いでいる。

府が認証する「なにわの伝統野菜」のひとつ。みずみずしさと甘みが特徴だ。明治期に米国から入ったものが根付き、地元野菜として育てられてきた。ただ、約50軒でつくる「碓井豌豆保存部会」のメンバーは平均年齢が70代。高齢化が進む中、この春から部長を引き受けてPR活動に取り組み。

農業を志したきっかけは、学生時代。高知県の農家で1カ月間、ファーマ

大阪府藤井寺市出身。ウスイエンドウのほかに、米作り、自作のピニールハウスでの葉もの野菜の栽培も手がける。豆ごはんが大好き。

ムステイを体験した。作物が育ちゆく姿に感動。「食べ物を通じて、誰かの明日のエネルギーを作り出すことができる」と、一生の仕事に決めた。

大学卒業後は、資金づくりのため建設会社に10年勤務。その後、府の農業大学校で2年間学んだ。しかし、「女性1人では長続きしないだろう」と、なかなか農地を貸してもらえなかった。唯一受け入れてくれたのが、羽曳野市の碓井地区だった。

恩返し気持を込め、地元和菓子店とウスイエンドウの大福を商品化。料理の材料に使ってもらおうと、豆を粉末やペースト状にした製品の開発も進めている。

「他種と交配させず、100年前のままの豆の味を守る。その取り組みに、ロマンを感じます」

文・石塚翔子 写真・滝沢美穂子

記者から

先輩農家たちも認める若手の星。「どんな作業も好き。毎日が楽しい」。笑顔が輝いていた。